

みんなの社プリ～教科書太字の確認～ No. 19

開国と近代日本の歩み



<欧米の進出と日本の開国①>

- (1) 1640年にイギリスで始まった、クロムウェルの指導による革命。
- (2) 1688年にイギリスで起こり翌年に「権利章典」を制定した無血革命。
- (3) 北アメリカのイギリス植民地が独立戦争を起こし、1776年に発表した宣言。
- (4) 市民政府二論を著し、社会契約説と抵抗権を唱えた、イギリスの啓蒙思想家。
- (5) 法の精神を著し、三権分立を唱えた、フランスの啓蒙思想家。
- (6) 社会契約論を著し、人民主権を唱えた、フランスの啓蒙思想家。
- (7) 国王が政治権力を独占し、独裁的な力を持つ政治体制。
- (8) 1789年にパリの民衆がバスチーユ牢獄を襲撃したことをきっかけに始まった革命。
- (9) フランス革命を起こした人々が発表した、人間の自由と平等、国民主権、言論の自由などをうたった宣言。
- (10) フランス革命後の不安定な情勢の中で権力をにぎり、1804年に皇帝の位に就いた人物。
- (11) 18世紀後半のイギリスで始まった、技術の向上による産業と社会の仕組みの変化。
- (12) 資本家が労働者をやとい、利潤を目的として生産を行う経済の仕組み。
- (13) マルクスの著作などによって広まった、資本主義の仕組みを批判して生産手段を公のものとする思想。
- (14) ドイツ統一を達成し、「鉄血宰相」と呼ばれたプロイセンの首相。
- (15) ロシアが採った、黒海や地中海、中央アジア、中国東北部へ進出しようとする政策。
- (16) 奴隷制をめぐる対立から、1861年にアメリカで始まった内戦。
- (17) 南北戦争のときに北部を指導し、奴隷の解放などを進めた大統領。
- (18) 19世紀にイギリス、インド、中国〔清〕の3国間で行われた貿易。
- (19) 中国〔清〕が麻薬を厳しく取りしまったことに対して、1840年にイギリスが軍艦を派遣して始めた戦争。
- (20) アヘン戦争の講和条約。
- (21) 1851年に中国で洪秀全に率いられた農民たちが起こした反乱。
- (22) 1857年に起こったインド兵のイギリス人に対する反乱をきっかけに、インド各地に広がった反乱。
- (23) 1853年に浦賀に来航し、開国を求める国書を江戸幕府に差し出した、アメリカの東インド艦隊司令長官。
- (24) 1854年に幕府がアメリカとの間に結び、下田と函館を開港した条約。
- (25) 長い間続いた鎖国政策をやめ、国を開いたこと。
- (26) 1858年に幕府がアメリカとの間に結び、函館・神奈川（横浜）・長崎・新潟・兵庫（神戸）を開港して自由な貿易を認めた条約。
- (27) 日米修好通商条約で認められていた、外国人の犯罪は日本側では裁くことができず、その国の領事が裁判するという権限。

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	
(8)	
(9)	
(10)	
(11)	
(12)	
(13)	
(14)	
(15)	
(16)	
(17)	
(18)	
(19)	
(20)	
(21)	
(22)	
(23)	
(24)	
(25)	
(26)	
(27)	

(28) 日米修好通商条約で日本になかった、輸入品の関税率を自由に決める権限。

(28)	
------	--